青梅市文化財ニュース　第　８５　号

平成　６年１１月１５日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

（青梅市駒木町 1-684 ℡0428-23-6859）

アオバトと果物

ハトの仲間というと、ドバトやキジバトがお馴染み。スズメやカラスと並んでポピュラーな鳥です。しかも、紀元前の古代エジプト時代より人に飼われてきた歴史があるので、人はハトのことをよく知っていると思いきや、案外そうではないのです。ハトの仲間には、まだよく解らないこと、他の野鳥とは違う面白いこと、がたくさんあります。

アオバトというハトがいます。大きさは、普通のドバトくらい。全身緑色がかった、きれいなハトです。鳴き声が独特で、ちょうど尺八の音、あるいは遠くから聞こえるパトカーのサイレンのよう。青梅では、御岳山や高水山など、深い森のある山に住みます。平野部にはあまり降りて来ないのですが、小曽木や長淵の丘陵部では、時々姿を見かけます。

このアオバト、北海道の小樽や神奈川の大磯の海岸では、山から集団で海水を飲みに来ることが知られています。他の場所では、化学工場の塩分を含む薬品廃棄物や、鉱泉水を飲みに集まる例も知られています。現在、日本で繁殖する６種のハトの仲間で、海水を飲むという行動が確認されているのは、アオバトだけのようです。

ハトの仲間はすべて植物（主に穀物）質のエサをとります。そのため、動植物や雑食の鳥に比べて、塩分やミネラルが不足しがちです。この不足分を補うために、キジバトなどでは地上で採食する際、土中に含まれる塩分などを補給していると思われます。ハトを飼う時には、エサの豆と一緒に、塩土というものを与えます。塩土は、赤土に塩を混ぜて固めたようなものです。ハトのようなベジタリアンにとって、塩分補給は大問題なのです。

初夏の頃、奥多摩の山間地で、クワの実を食べに、アオバトがたくさん集まっているのを見たことがあります。ミズキの実に群れていたこともありました。アオバトの好物は果物。穀物食というより、果物食に近いのです。(季節により変わりますが)。このエサでは、キジバトやドバトに比べて、更に塩分が不足します。この不足分を補うため、アオバトの中には海岸へ海水を飲みに移動するものもいるだろうと考えられています。途中、外敵に襲われたり、海岸で溺死する固体もあるのですから、まさに命がけの塩分補給です。

そこで気になるのが、奥多摩のアオバトの塩分補給です。これまでのところ、奥多摩のアオバト全てに共通する疑問です。多摩・奥多摩地域には、何か所の鉱泉が知られています。一つ

の可能性として、まだ知られていないような塩分を含む鉱泉を、アオバトが塩分補給源にしていることが考えられます。あるいは、食生活を多少変えることにより、エサ（種子）からの塩分補給が可能になるのかも知れません。いずれにしろ、奥多摩のアオバトの行動、採餌、吸飲場所などについては、まだまだ調べることがたくさんあります。アオバトが飲んでいた谷間の水から、「アオバトの湯」発見、などという可能性も無きにしもあらず。よく見ると、ハトはとても面白いのです。

（文責　桜岡）

＊　青梅市教育委員会発行新書籍の御案内　＊

青梅市史史料集第４４号『青 梅 郷 土 誌 』　　頒価１，０００円

青梅小學校より昭和１６年に発行された『青梅郷土誌』を復刻。

１２月１日から青梅市郷土博物館にて頒布します。